

STANDARD?

スタンダードはいらない!

Photos: Yu Taniguchi
Text: Shiro Inada/Sasa L.L.C.



花屋で購入した色とりどりの花に加えて、直に咲いていた茶花やドクダミも。「以前から学んでいる茶道の世界に、床の間に花を生ける『茶花』という文化があって。茶花では、その時々で直に咲いている季節の花を使うことが多いんです。その考え方に触れてから、庭先のお花や植物を部屋に飾るようになりました」



「お花を生けるときに大切にしているのは、整えすぎないということ。花にはそれぞれ向いている方向があって、葉っぱのつき方や茎の曲がり方にも、その花が持っている表情があるんです。だから最初から完成形を決め込むというより、まずは少し長めに切って、花瓶に挿してみよう。そこから眺めて、長いなと思ったら少しずつ切っていくくらい感覚でいいと思っています。お花屋さんでは、飾りやすくなるために葉を落とすことも多いのですが、個人的には葉っぱもなるべく残すようにしています。花びらだけでなく、葉の色や形、生え方まで含めて、その花の個性だと思っています。庭先に咲いているお花をそのまま摘んできたような、自然に近い佇まいで飾るのが好きなんです」



中国のココナッツジュース缶(左)と、スペインのネオウルウォーターのボトル(右)。「飾り立てた上での買い違いは何かでも花飾りになります。ペットボトルはいろいろ試してみたいのですが、このボトルがデザイン的に一番好き。ココナッツジュースの缶は色味がかわいくて残っていたものです」



#015 はまたんぺさん @ryostk フラワープロジェクト「約束」主宰

毎号様々な読者のライフスタイルや趣味にフォーカスを当て話を聞く連載企画。
今月は、ディリジェンスバーラーに勤めたのち、現在は植物を使った空間装飾や、作品制作などを幅広く手がけるはまたんぺさんをゲストにお迎え。日常にお花を迎え入れるヒントを教えてください。



「ディリジェンスバーラー時代から、いかに手軽にお花を楽しむかを考えていました。お花を飾ることって、どうしても少しハードルが高くて敬遠するものなんです。特別な道具や知識は必要ないし、花器だって家にあるもので代用することもできる。お花も、必ずお店で買わなければならないわけではありません。庭に咲いて、そのまま、散歩中に見つけた枝、道端に落ちている草花をほんの少し持ち帰って飾るだけでも、部屋の景色をガラッと変えてくれるんです」